

令和4年度（2022年度）宝塚市人権教育推進委員会（概要）

会議名	令和4年度（2022年度）第8回 宝塚市人権教育推進委員会
日時	令和5年（2023年）2月 27日（月）9：30～11：30
場所	宝塚市立中央公民館 208学習室
出席数	<input checked="" type="checkbox"/> 内田委員 <input type="checkbox"/> 北委員 <input checked="" type="checkbox"/> 平山委員 <input checked="" type="checkbox"/> 後藤委員 <input type="checkbox"/> 岩室委員 <input checked="" type="checkbox"/> 谷添委員 <input checked="" type="checkbox"/> 奥委員 <input checked="" type="checkbox"/> 藤井委員 <input type="checkbox"/> 菅委員 <input checked="" type="checkbox"/> 和久委員 <input checked="" type="checkbox"/> 加藤委員 <input type="checkbox"/> 石井委員 <input checked="" type="checkbox"/> 岩崎委員 <input checked="" type="checkbox"/> 山下委員 <input checked="" type="checkbox"/> 山本委員 (■出席／□欠席)
傍聴者	0名

- 1 配布資料の確認
- 2 委員長あいさつ
- 3 会議の成立報告（15人中11人出席）
- 4 教職員の人権意識調査に向けて
- 5 今年度のまとめ

事務局：まず本日の資料を確認いたします。（資料の確認）
では開会の挨拶を和久委員長よろしく申し上げます。

委員長：最近拾い物を3つしました。一つ目はマイナンバーカードです。派出所に届け出ました。拾った場所は聞かれましたが、私の名前は聞かれませんでした。二つ目は財布です。そのまま派出所に届けました。今度は違いました。名前、年齢、住所など全部聞かれました。マイナンバーカードを自分が落としてそれを拾ってくれた人がいたらお礼を言いたいと思います。財布については、未だにお礼の連絡はありません。どうなっているのでしょうか。戻らなかったのでしょうか。三つ目は確定申告です。メールやパソコンでも簡単にできますが、私は19年間手書きで作っています。3日ほどかかります。昨日終わって戻ってくる額が分かりました。頭の体操になりました。今日も頑張っていきましょう。今日は調査の内容の再確認と事務局から調査方法と集計の仕方の説明があります。次が統一応募用紙について前回質問がありましたので資料を用意しています。その簡単な説明です。そして今回は1年目の最終日ですから、みなさん全員から感想を述べてもらいたいと思います。
それでは、宝塚市教職員の人権意識調査β版を見て下さい。今日初めて見るのですが、最終点検をしないとイケないと思います。

委員：これはデータでの配布ですか、ペーパーでの配布ですか。

事務局：データでの配布になります。教職員はみなさん一人一台パソコンを持っています。マイクロソフトオフィス365が入っていて、その中にフォームズというソフトがあります。アンケートやクイズで先生が授業でも使っています。これを使うのがベストかと判断しましたので、先生方にはパソコンでダイレクトに入れてもらう形になります。もし紙でしたいという方は印刷ができます。基本的には電子です。前の画面で私が適当に回答を入れていきます。（入力しながら説明）先生方は一つずつ自分が思う答えを選んでいけば順番に進んでいけます。最後に送信を押していただくと、こちらにすぐ送信結果が届きます。1000人入れてもすぐデータがグラフとなって出てきます。エクセルデータで開くこともできます。

委員：職種の（５）の栄養教諭は学校単位で何人おられますか。

委員：いても１人で、いない学校もあります。

委員：学校の規模で多い学校には１人はいます。

委員長：養護教諭はありますが、養護助教諭もありますか。

委員：幼稚園はみんな養護助教諭になります。

委員長：「養護教諭・養護助教諭」というふうにしないといけないですね。

委員：問１０から問１５あたりですが、３つ以内で選ぶものとか、１つ選ぶというものもありますけど、ないとは思いますが、「ない」という人もいるのではないかと思うので、選択肢として置いておいてもいいのかなと思います。たとえば問１０だったら、「別にないかな」と思う人がいるかもしれない。意図的になくて選択してないのか、ミスで選択してないのかが分からないので、問１０から問１５までと問１９と問２０は「あてはまらない」とか「ない」という選択肢を作った方がいいのかなと思います。あと、これは必ず選ばないと次に進めませんか？

事務局：いえ、必須項目にはしていないので進めます。

委員：であればより必要ですね。選ばなくても次に進めるなら「あてはまるものがない」というのは必要です。

委員長：もう一度教えてもらえますか。

委員：問１０から問１５と問１９、問２０は「あてはまるものがない」という選択肢がいます。

委員：「その他」は置いておきますか。

委員長：残しておきましょう。

委員：「その他」で記入を促すのであれば、質問文にその旨を書いておいた方が良いでしょう。「その他」には具体的にご記入下さいとか。そういう書き方をしないと不親切です。もうひとつ、そういうような但し書きというか、記入にあたって留意事項がいくつかありますが、最初の所に書いておくべきだし、ちょっとしたお願いみたいな文書もつけておく必要があります。

委員：このアンケートの調査目的とか実施主体を学校長とか先生方に対して委員会が鑑文を作られると思いますが、それをこのアンケートの表に入れるのか教えてほしいです。

委員長：別紙でそれを作るのか、アンケート用紙に入れるのかどちらかですね。実施主体、対象者、目的は絶対書かないといけません。

委員：アンケート用紙には普通は書かないと思います。別紙で調査の主体とか趣旨とか目的を書きます。

委員：紙ベースで調査する時は、それを調査票に書いてしまうと手元に残らないです。依頼文は手元に残るようにして、調査票は回収する。だから別に分けておいた方がいいです。

委員：最終的に自分がチェックしたものを記録するとか、一時保存するとか、印刷するとか、これを送るとか、選択は再度出てくるのですか。

事務局：最後に送信というものがありますので、送信していただく形になっています。送信してから、「回答ありがとうございます」というメールが届くように設定はできると思います。ですから、そこから自身の回答を見返すことは可能になります。

委員：管理者だけしか見られないのではないのでしょうか。

事務局：結果の表示につきましては、おっしゃるようこちらで回答内容は全て見ることはできます。ただ、お名前などはわかりません。

委員：アンケートの途中で一時保存はできますか？

委員長：このペーパーは全員には送らないですか？

事務局：今の予定ではペーパーは送らないです。

委員：基本は鑑文に URL を張り付けて、その URL をクリックすれば飛ぶようになりますか？

事務局：先生方にはそれでお知らせするのが一番良いと思います。「こちらをクリックしてください」から URL をクリックしたらみなさんこの画面に入って行かれるというのが一番多いと思います。その中でもペーパーでやりたいという方は、そこから印刷して書いていただいてそれを提出していただくことになります。

委員：先生方はできると思います。市からのアンケートなども最近は出てきているので、どこかのフォルダーに入れておいて、この URL をクリックしていただくとすれば、こちらに飛んでいくので、先生方は問題なくできると思います。

委員：アンケート自体はパソコンとペーパーのみですか？

事務局：それ以外の選択肢としては、どのようなものがありますか？

委員：先日職場であったアンケートでは、ペーパーに QR コードがついていて、QR コードでみんな自分のパソコンで開いて、アンケートに答えて、最後送信したら、「あなたはこの番号で回答が来ました」というものが来ました。必ず学校の中でしないといけないアンケートなのか、時間があれば、家でもできるのですか？

委員：QR コードでもいけますね。両方できるようにしておけば。

委員：勤務時間に職場内で行うというのが基本ですか？

事務局：基本的には勤務時間内でしていただくのが良いです。数名のデータですが、だいたい25分くらいかかります。

委員：一時保存ができるといいのですが。あるいはそのままの状態で止まってくれているといいのですが。

委員長：学校のパソコンでそれはできますか？

事務局：今この場ではっきりとお答えすることができませんので、確認をいたします。

委員長：先生方が書き易いものにしてあげて、自分の書いたものが手元にあってほしいと思います。事務局

局ではこのアンケートをいつ依頼する予定ですか？

事務局：計画上では令和5年の夏休みの少し前なので、7月中旬くらいを考えています。

委員長：依頼文及び留意事項、あるいはこういう困難点があるということをきちっとまとめて次回の会に出して下さい。先生方からクレームが出ないように丁寧にやりたいと思います。
内容についてはよろしいでしょうか？（特に意見なし）
気づいたらまた次回出して下さい。では、事務局は答え方について説明して下さい。

事務局：「回答を選んで送信をするとこちらにデータが届きます」、というところまでは先程ご説明しました。

（続いて事務局が集計等の説明）

委員長：考えないといけないのは、クロス集計をどこの問題に対して、どう行うかということですね。しかしそれを今から検討するのは難しいので、案を作らないといけないですね。

事務局：それぞれの問いの結果につきましては、絶対に揺るがないことですから、これに対しては、京都の調査では年齢別、校種別は固定してしまっているの、同じような形はできると思います。クロス集計は京都の調査では、問9の（エ）の部落差別解消推進法について[1]知らない、[2]聞いたことがあるがあまり理解していない、[3]おおよそ理解している、[4]理解しており、人に説明できる、という部分と問21で「同和問題について指導経験がある」「同和問題について経験がない」と答えた人の間でクロス集計をかけていたりします。

委員：必須の項目が年齢層までで終わっています。そんな人はいないと思いますが、問4～問5は必須ではないからしなくてもいいのかと思う人がいるかも知れません。

事務局：基本的にはアンケートを順番にやっついていかれるかと思いますが、無記入の方が出てくる可能性もあります。そうなった時に必須項目にしてしまうと、そこに何かを入れなければ、次に進めないことになってしまうので、問4以降に関しては必須でない設定をしています。多くの方は順番にされるだろうと思いますが、どこまでを必須に設定するのは難しい問題です。

委員：必須の項目に答えなければ、次に進めないというシステムですか？

事務局：必須の項目は飛ばせません。

委員：「必須を入れて下さい」というメッセージが出るのではなくて、そこを答えないことには先に行けませんか？必須項目を後で答えようと思った場合、そこでストップしてしまうのですか？

事務局：問1から問3までが必須なので、ここを入れなければ次へというのをクリックしても、「必須を入れて下さい」とここはなりません。たとえば問4は入れて、それ以降は入れずに少し先の問いまで行きます。でも問5以降選んでいなかったから「戻る」を押していただくと問5から入力していくのは可能です。

委員：問21の人権問題の指導経験の[3]子ども（いじめ・不登校）の問題とありますが、「子どもの人権の問題」というように人権という言葉を入れた方が良いと思います。あるいはカッコの中はいじめと不登校だけですが、虐待やヤングケアラーの問題もあるので、虐待等と入れた方が良いでしょう。

委員長：それでいきましょう。クロス集計のことですけど、京都をモデルにしていますので、京都と比較ができるよう、どの項目でクロス集計するのか一覧表で次回出して下さい。今回は別紙で渡す趣

旨、留意事項、集計表、グラフ等も出して下さい。

事務局：次回出せるように準備をしておきます。

委員長：次のことにいきます。絵本の調査を北委員にお願いして、協力していただきました。パンフレットにたくさんの絵本が出ていますが、実際に使われている本を調べた方が良いので、全園長さんが協力して下さいました。年度末までに市教委に集計が集まってきます。それを活かしてパンフレット作成に役立てたいと思います。

二つ目は統一応募用紙の件です。資料を見て下さい。これは今年度の全国人権同和教育研究会の報告集の一部です。この報告集には毎年このことにページが割かれています。1ページから3ページまでは授業でこれをやれば良いということで、先生が書かれた文章が載っています。ほとんどの先生が読まれています。4ページは統一応募用紙が出来るまではこういう応募用紙だったという事例です。私たちが就職する時はこういうものを書かされていました。学歴は全て書かないといけないし、親の名前から、親がどこに住んでいるか、家族全員の名前、学業の成績、友だちの名前、家族の状況、本人の健康のこと、長所・短所、信条・主義、保証人を3人、もちろん顔写真も貼らないといけない。これが一般的な応募用紙でした。これは差別が起こるということで、子どもたちや学校の先生にとっては我慢ができない応募用紙でした。次のページには現在の統一応募用紙があります。今では高校を出た時には、ほとんどこの用紙が使われています。見られたら分かるように、あつという間に書けます。学歴、資格、趣味、校内外の生徒活動、志望動機、など当然書かないといけない項目になっています。ただ写真はあります。説明も書いてありますので読んでおいて下さい。

委員長：次に行きます。今日が今年度最後の委員会でしたので、一人ずつ感想と来年度に向けて抱負を言っていたきたいと思います。

委員：1年間、水平社博物館を見学したり、ブロック別の研究会にも参加させていただいて、人権について学びを少し深めることができたかなと思います。来年もいろいろ学びながら、より深めていきたいと思います。

委員：今日は今までの総括も含めまして、良い委員会になって、改めて勉強させていただきました。個人的には宝塚の人権教育、同和教育はすごく頑張っているなど実感しています。ですからこのアンケートも良い方向により進めていくものになりそうですので、期待しています。

委員：仕事をしていて、なかなか参加ができなかったのが事実で非常に残念だったのですが、1回休んでしまうと全部ずれてしまうというのが本音でありました。欠席した人間にも「来月どこが行けますか」という連絡をいただくと参加しやすいのかなと思いました。宝塚はすごく意識が高いのだなと思っていて、ここの席にたくさんの市民さんに座っていただきたいというのが本音です。ここに来なければ分からない事とか、初めて知る事とか、知らない言葉というのがあって、勉強して来ないと確かについていけないというくらいレベルの高い会だと思っていましたが、たくさんの方にこういう会を見ていただいたり、参加していただいたりしてほしいと思いました。

委員：水平社博物館も小学校の方も都合が悪くて行けなかったのですが、今まではなかった会議録をいただけるようになって、欠席しても会議の中身がよく分かるようになって、大変助かっています。できればデータで送っていただくとファックスや電話をしなくてもいいので、そういうふうになると良いなと思いました。

委員：私はこの会で発言できるだけの能力や知識は持っていませんが、継続していろいろな事やっていると、偉大な事だと思っています。いじめ、虐待、不登校の問題は多いと思います。小学校においても学校に行けない子が結構増えてきています。そういう子どもたちに対する人権を気にしているところです。それをどのようにするかということは、私個人としては中々難しい

と思いますけど、地域の人間と一緒にあって、何とか学校に行けない子を行かしてあげようというふうには思っています。現場の先生方は非常に大変です。そこへ不登校あるいはいじめの問題が発生した時にどう対応するかというのは、本当に大変です。ですから我々地域の人間が出来ることはお手伝いしていきたいと思っています。本年度のアンケートにつきましては、非常に有意義な調査であろうと思います。結果を見てどのように若い先生方が部落問題について意識を持っているかということが、見えてくると思いますので、意識のない若い先生方に今度は人権意識をどのように植え付けていくかというのが、我々が今後活動する中でやっていかないといけない問題だと思います。

委員：今回は、6年ぶりに人権教育推進委員会に入らせてもらいました。「教職員にアンケートを取る」。これは素晴らしいことをするのだなと思って、中身を全部聞きたいと実際に今思っています。できるのを楽しみにしていますので、今後ともよろしくお願いします。

委員：この意識調査は集計が大変だろうと思っていましたが、なんとそうではなかったのですね。時代はそうなっているのだなということですね。年間3回の地域懇談会がありますけど、この前も先生方と学習会を持ちました。思った以上に熱心なのです。古い先生方はしっかり残していきたいという思いと同時に、若い先生方は知らないことが多すぎるということにもすごく期待しています。来年度に向けて「何を知りたいのか」を事前に質問をもらって、それに対して、こういう風に先生方と連携していきたいというものに繋げていきたいです。このアンケートの集計結果は、何となく自分が考える数字からあまりはずれはないと思います。集計結果を次はどう活かしていくのが大きな課題と思っています。

委員：中学校を代表して私が出てくるということで、最初は不安でした。1年間色々な事をこのメンバーで出来たことは楽しかったですし、自分で出来ることは今後やっていかないといけないという責任を感じています。

委員：学校現場では、市の教育振興基本計画の後期の中にもありますが、教職員の人権意識を高めていくということも大きな柱にしています。全ての教育活動の中において、教職員の人権感覚をどう高めていくかということについて、色々な課題教育がたくさんあるのですが、人権教育を根本に置いて、進めています。若い教職員に対して、ベテランや中堅が、知識や経験や色々な事を伝えていくということで若い教職員の人権意識が高まっていきます。この人権意識調査を来年度の夏にするということで、その後の手立てを考えながら進めています。

委員：私に声がかかったのは、人権に関する調査や教職員に関する調査をやらせてもらっているということで、まず一番言いたいことは調査をやろうとする気があることは素晴らしいことだと思います。実態が分からなければどうしたら良いのかは見えないわけで、事実宝塚市の教職員がどんな状況にあるのかを把握して、その上で、この先をどう見据えていくのかということなのです。基本的な事が掴めてないと次のステップに行けないと思います。奈良で7000人くらいの教職員の調査を一昨年やりました。やっと今年まとめにかかっている、先日最後の議論をしたんですけど、若い人が部落差別を習う機会が減っています。この20年間にかなりのロスがありましたが、ただ希望がすごくあって、基本的に教員は学ぶことに抵抗がないし、自分が学んだことはしっかりと子どもたちに伝えたいと思っています。ただ何が欠けているかというと、知識であったり、経験であったりが無いわけですから、そこを働きかけていけば伝わりますし、それをまた子どもたちに伝えようと思えます。教職員の資質も踏まえれば、上手く手立てすれば上手くできるのだろうという希望を持ってますし、学びたい意欲はあると思います。いかに学ぶ機会を増やしていくのかということが問われています。アンケートをやったら終わりではなくて、どう活かしていくのか。どうしてもやり切ったらそれで満足してしまうので、来年度も頑張っていければと思います。

委員長：来年度以降、このアンケートの結果をどうするかが問題であって、アンケートを取るのが目標ではないのです。現場へどう返していくか。その時に考えられるのは、アンケートに協力してくれ

た先生全員に返さないといけないので、結果を見て、楽しく、開いてみようかなと思えるパンフレットを作りたいと思います。この推進委員会が作っている手引き、パンフレットですが、全員配られるので、そこに入れるのもいいかなと思っています。先生方に是非返していきましょう。来年度以降もまたこのメンバーで頑張っていきたいと思っています。1年間どうもありがとうございました。

事務局：遅くなりましたが、本日傍聴人はありません。来年度の日程につきましては、来年度になってからあらためて調整をさせていただきます。

事務局：いろいろなご意見をいただきまして、ありがとうございました。教育委員会としましてはこれからの施策のためには実態を把握する必要があるということです。教職員に調査をさせていただくことということで、今回提案させていただきました。色々なご意見をいただきながら、何とかまとめることができたと思っています。この内容につきましては来年度調査をして、その結果を分析して、どう活かしていくかが一番大事だと思いますので、また、来年度お願いしたいと思います。1年間どうもありがとうございました。